

わが村の正月と真描

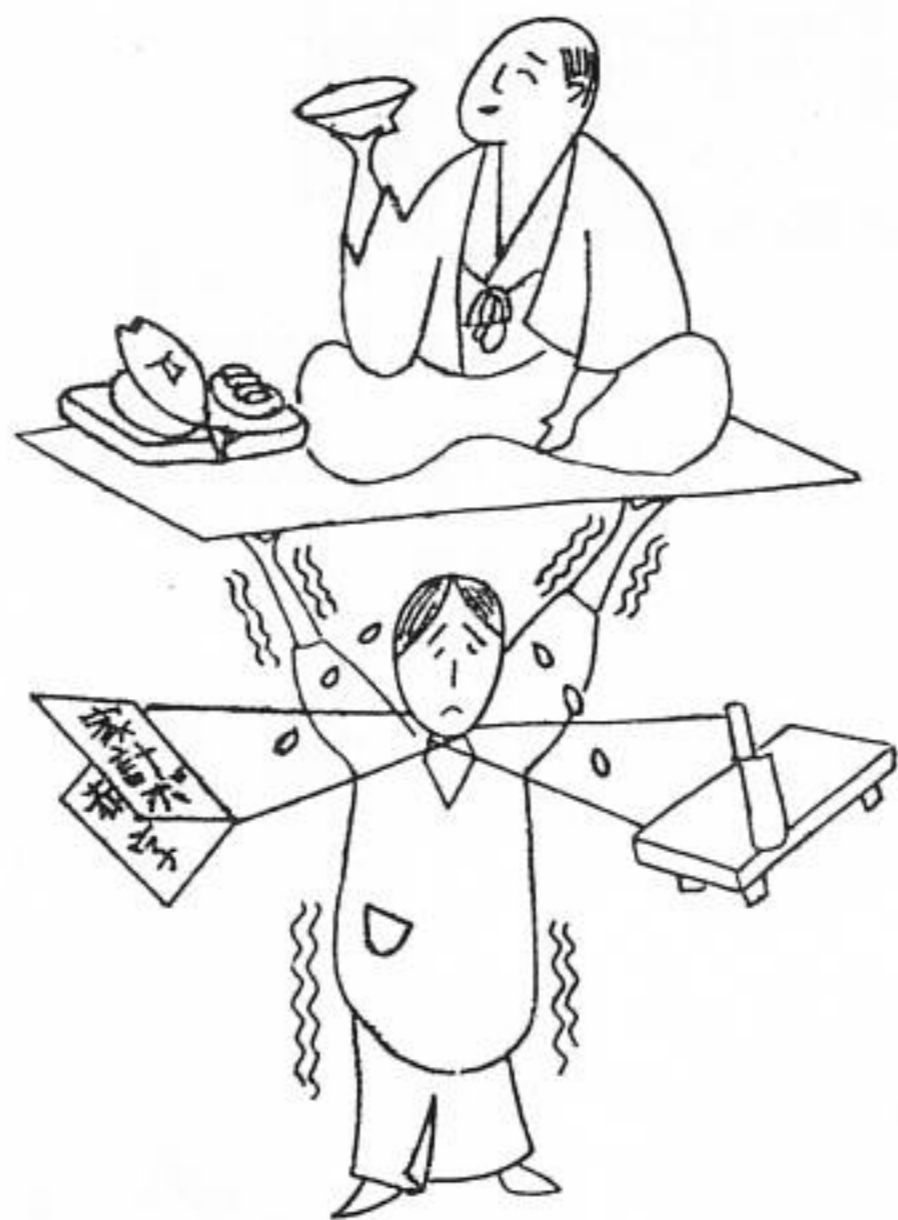
まだある"二度の正月"

必要な頭のきりかえ

生産に明け生産に暮れる農家にとつて、冬、わけても正月は作業から解放されてゆつくり休養できる絶好の期間でもある。ところがこれまでの正月はいろいろと大きな問題をはらんでいる。まず年末年始の贈答費、回礼客一人一人を招き入れ、はては隣近所の人達を招いての飲食費が大変である。またこれらの接待に追いまわされる婦女子の肉体的負担が大変である。加えて新旧まちなちのため正月が二度にわたり、これら経費や手数が倍増になる家庭も少なくなつた。

ものに対する考え方である。

▽ 大正月はあまり簡単で物足りなかつたから、小正月はほんとうの正月をやる——これはある主婦の言葉である。ほんとうの正月とは今までどお



正月様々……

り飲んで食べて盛大なものにしようとするものであろう。盛大に正月をするとなれば、朝から晩まで冷たい台所で働かなければならないのはそういつた主婦自体ではないのかと、変に気をまわしてみたくもなる。

▽ もう一つは大小とりませ三度の正月が行われるということ。新歴でまず正月、十五日に小正月まではよいとして、旧歴の正月でもまた小正月、都合三度の正月である。これらの大部分は小正月を一度すましたが隣近所

お手もとの

"宝くじ"は

先に発売された第十五回東北自治宝くじは各位のご協力により本村目標額一、六〇〇枚を完全消化できました。

当せん金の支払期間は去る二月八日より一年間、場所は便宜上農協及び下郷支所で支払いたしますが、なるべく今月中にお受取下さるよう望んでおります。なお当せん番号は次のとおり

七等 下三桁六四九(一千元)
八等 下二桁 二二(百円)
九等 下一桁二・六九(三十円)

または親せきの家で旧で小正月をするためそれにならつた例が多いようだ。

△ 小正月を行うにしても方向としては"新歴"一本に統一されるべきだろうが、旧歴に対する古くからの生活感情を抜けることは容易なことでない。

▽ 古くから残っている農村の風習を何もかも"封建的遺物"として打破しようとすることは公式論に過ぎるだろうが、すくなくとも"三度にまでわたる正月"をなくすればわが村は大きなムダから救われることはたしかである。

▽ またこれまではあまりにも"お客本位"の正月だつた。

これは経費はもちろん接待にまわる婦女子の肉体的負担も大きくしている原因にもなっているし、隣が正月だから自分の家でもまた正月をやらなければならぬという結果に追いこまれるこのところ回礼など虚礼の廃止が実行にうつされて脱却しつつあるが、この際もつと"家族全員で楽しめる正月"に頭をきりかえていくべきではないだろうか。

正月は一年の計画をたてる絶好の機会といわれるが、家族会議などと大仰な銘はうたなくとも一家揃つてだんらんの楽しいふん囲気がおのずと一年の方向を示してくれようというものである。

村内の種雄畜一覽表

畜種	名(登録番号)	種類	生年月日	産地	部	管	理	者
馬	長国	重半血	元・五・三	北海	台山	種付所	佐藤	寅治
和牛	大渡	黒和	三・五・三	奥羽	蔵郷	小田	野代	寅治
羊	住大	デコ	三・五・三	鳥取	須吉	小田	野代	寅治
羊	第一	コリ	三・五・三	東由	住吉	佐藤	銀一	郎
羊	第四	ール	三・五・三	秋田	蔵	畑	代	壽治
羊	第三		三・五・三	福島	下吹	畑	山	清一
羊	第二		三・五・三	秋田	老方	小松	徳治	郎
羊	第一		三・五・三	秋田	住吉	嶽	石	儀助
山羊	正	ザ	三・五・三	秋田	時雨	八島	徳一	郎
山羊	和	日本	三・五・三	山形	蔵	田	代	壽治
山羊	正	ザ	三・五・三	山形	戸坂	高橋	又三	郎

今年の新入学児童

二九六名

今年の四月新しく小学校に入學する児童数は二九六名(男一五一、女一四五)で、各学校別数は次のとおりです。

老方小 三三 二九 六二
(内祝沢分校 二〇 三一 四)
法内小 一一 二〇 三一
(内高村分校 四)
宿小 三四 二二 五六
(内大台分校 四)
玉米小 二七 二六 五三
住吉小 一七 一八 三五
神山小 六 五 一一

種雄畜検査に合格なつたものは右の通りであります。合格ならない種雄畜での種付は処罰されますから注意して下さい。